

## R5実践報告②

# 子どもの学習・生活支援事業による居場所作りと多様な人の参加支援

認定NPO法人カタリバ  
野倉 優紀



未来は、つくれる。

**KATARIBA**  
Shape the Future

 アダチベース  
ADACHI BASE

# 自己紹介



## 名前

野倉優紀 (のぐら ゆうき)

## 経歴

認定NPO法人カタリバのアダチベース事業責任者。

2015年に大学卒業後、外資系コンサルティング会社に勤務。

2018年5月にNPOカタリバ入職。以来、アダチベースに勤務し高校生支援プログラムの立ち上げ後、責任者に。

学生時代、英語の教員を目指していたものの、「全ての子どもが教育を通じて、生きた学びにつながるチャンスを得て欲しい」との思いで、カタリバでの業務に従事している。

# 目次

1

アダチベース事業の概要

2

施設内における多様な人の参画への工夫

3

施設外も含めた多様な大人による事業推進

# 目次

1

アダチベース事業の概要

2

施設内における多様な人の参画への工夫

3

施設外も含めた多様な大人による事業推進

# アダチベースを利用するこどもが抱える主要な課題

## 課題 1

生活習慣、食習慣の乏しさ



中学3年生  
女子生徒

ドンキで割引になったお弁当を買い溜めしてお父さんと一緒に2日かけて食べてるんですね。

## 課題 2

不良な学習環境が原因となった、学ぶ意欲と学習習慣の格差



中学2年生  
男子生徒

家には自分の部屋がないし、兄弟がうるさくて集中できないから、公園からオンラインでつないで勉強していいですか？

## 課題 3

極度に困難な家庭環境のため「がんばる」ためのスタートラインに立っていない



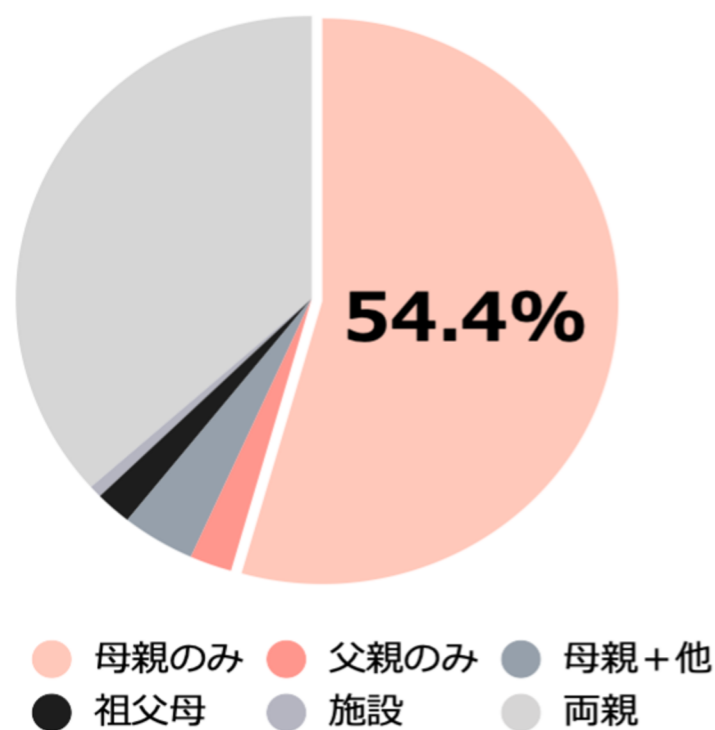
高校2年生  
女子生徒

家にまだ小さい兄妹がいて、お母さんの帰りも遅いので部活やバイトもほとんどできない。高校からは自立しないといけないので、大学進学は辞めて、やっぱり就職します。

# アダチベースを利用するこどもが抱える主要な課題

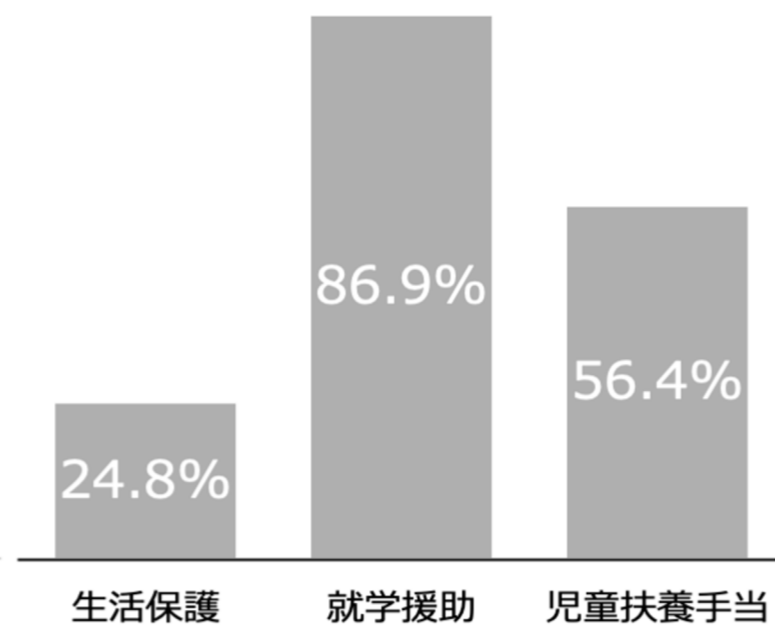
家庭からのバックアップが非常に手薄。家庭の支援を代替している。

### 施設利用生徒の世帯構成



(N=298) \* 2021年7月現在

### 経済援助制度の受給率



\* 全国平均との比較

- 児童扶養手当受給率：6.12%
- 生活保護受給率：1.60%
- 就学援助受給率：14.72%

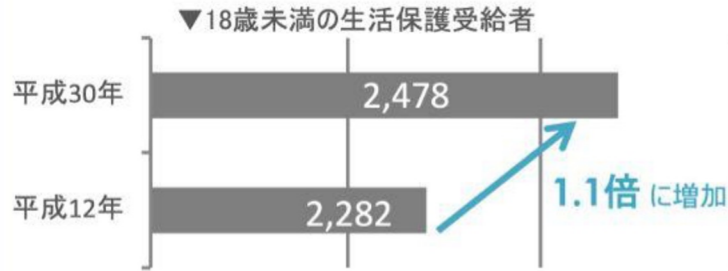
- ✓ 約6割がひとり親家庭である。
- ✓ ほぼすべての家庭が就学援助世帯を受給している。
- ✓ 約4人に1人は、生活保護受給世帯の子どもである

# 足立区における学習・生活支援事業実施の背景

## 経済的な問題

### 18歳未満の生活保護受給者数

受給者数は減少傾向にあるが、依然として生活保護受給者が**1.1倍**



※18歳未満の人口 平成12年 100,803人  
平成30年 98,443人 (1/1現在)  
[足立区人口 688,294人(平成30年6/1)]

### 就学援助率

経済的理由で受ける就学援助受給率が高い  
国の平均の**2.0倍**

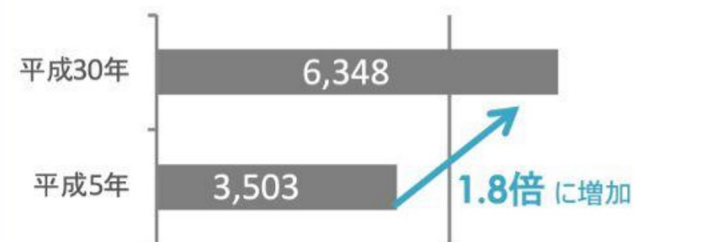
【参考:昨年度】(2.1倍だった)

項目	足立区	都平均	国平均
(H29年度)	30.4%	20.5%	15.4%
(H28年度)	32.3%	20.5%	15.4%
(H27年度)	-	20.5%	15.4%

※就学援助:経済的理由により就学困難な児童・生徒の保護者に対し、学用費等の必要な費用を援助する制度

### 児童扶養手当受給者数

ひとり親家庭向け手当の受給者数が**1.8倍**



※児童扶養手当:18歳年度末までの児童を養育するひとり親または養育者に支給される手当

## 学業に関する問題

### 中学校の不登校率

不登校率が**東京都より高い**

▼区立中学校の不登校数

年度	足立区	東京都
【H29年度】	5.22% (718人)	3.33% (7,887人)
【H28年度】	5.78% (813人)	3.17% (7,514人)
【H27年度】	5.12% (733人)	3.03% (7,164人)

### 高校進学率 (H29年度)

生活保護世帯の高校進学率が**23区より低い**

▼区立中学の子どもの高校等進学率

足立区	98.0%	23区	98.5%
-----	-------	-----	-------

▼生活保護世帯の子どもの高校等進学率

項目	足立区	23区
全日制	70.6%	89.0%
定時制	11.9%	4.3%
通信制	7.1%	2.9%
その他	6.6%	1.8%

生活保護世帯の子どもの  
高校中退率 (H28年度)

高校中退率が**23区より高い**

▼都立高校の中途退学者数(率)

足立区	4.29%	23区	3.16%
-----	-------	-----	-------

(前年比0.67倍)

全日制	3.77%	全日制	2.28%
定時制	5.32%	定時制	13.04%

生活保護世帯の子どもの  
高校卒業時の進路未決定者率

▼高校卒業時の進路未決定者

年度	区内生活保護受給者	区内都立高校
【H29年度】	27.3%	5.95%
【H28年度】	24.0%	5.42%
【H27年度】	12.3%	8.82%

## 子育てに関する問題

### 児童虐待相談件数

児童虐待の受理件数も虐待件数は依然として高い数値



子育てを負担に感じたりイライラしたりする人の割合

子育てにストレスを感じる親

▼乳児検診のアンケートでイライラすると回答した人の割合【H29年度】

3~4ヶ月児	40.5%
1歳6ヶ月児	54.5%
3歳児	64.1%

未処置のむし歯がある子どもの割合(小1)

むし歯の子どもが多いうえそれを放置している子どもが多い(医療費負担なし)

▼歯科検診でむし歯ありの判定を受けた子どもの割合

足立区	39.8%	23区	32.6%
-----	-------	-----	-------

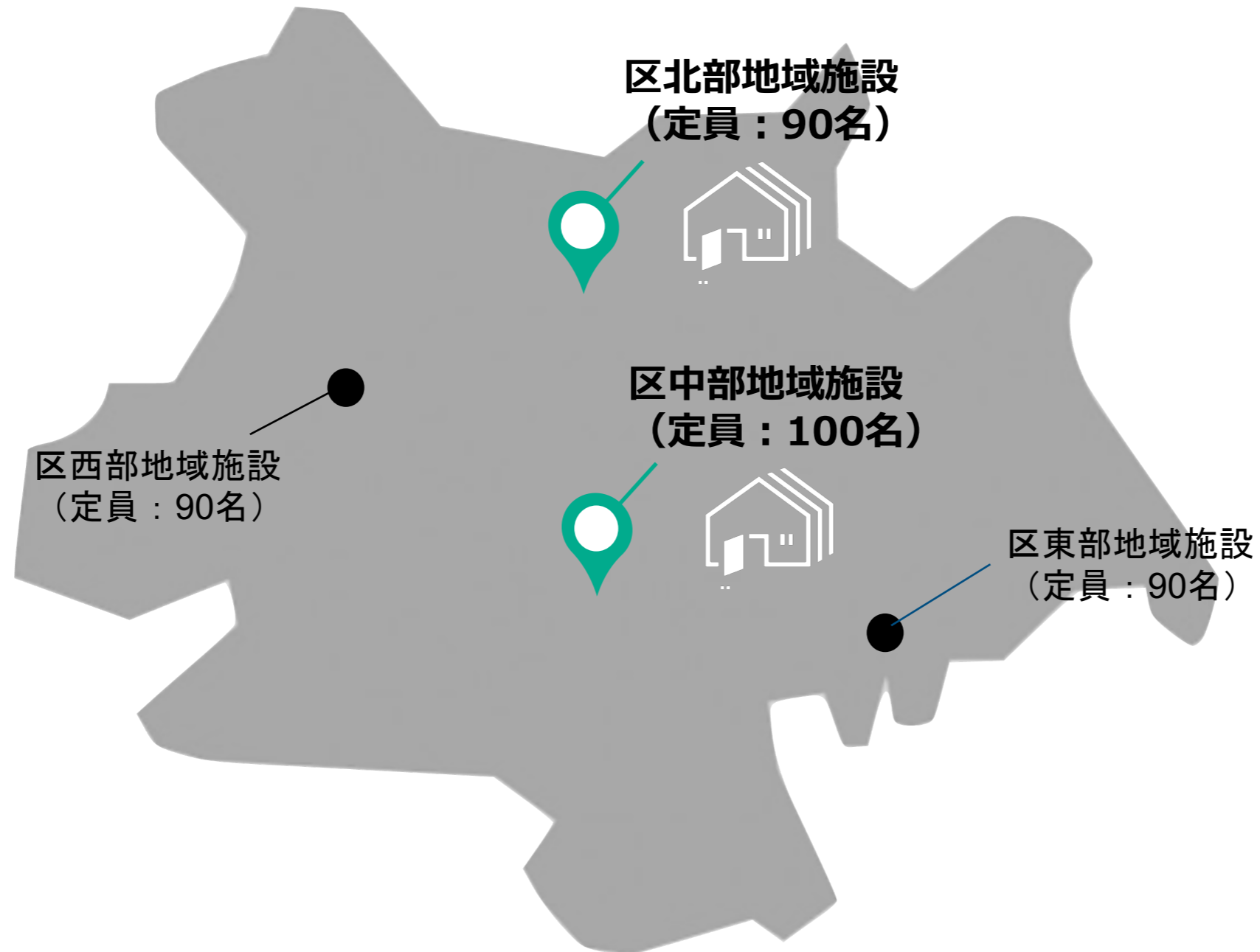
▼歯科検診で未処置のむし歯がある子どもの割合

足立区	23.9%	23区	16.2%
-----	-------	-----	-------

※子どもへの関心が低い、制度を知らない、仕事で歯科に連れていけないなど親の様々な要因が考えられる

# アダチベース事業の概要

足立区内における学習・生活支援事業の4拠点のうち、2拠点をカタリバが受託。





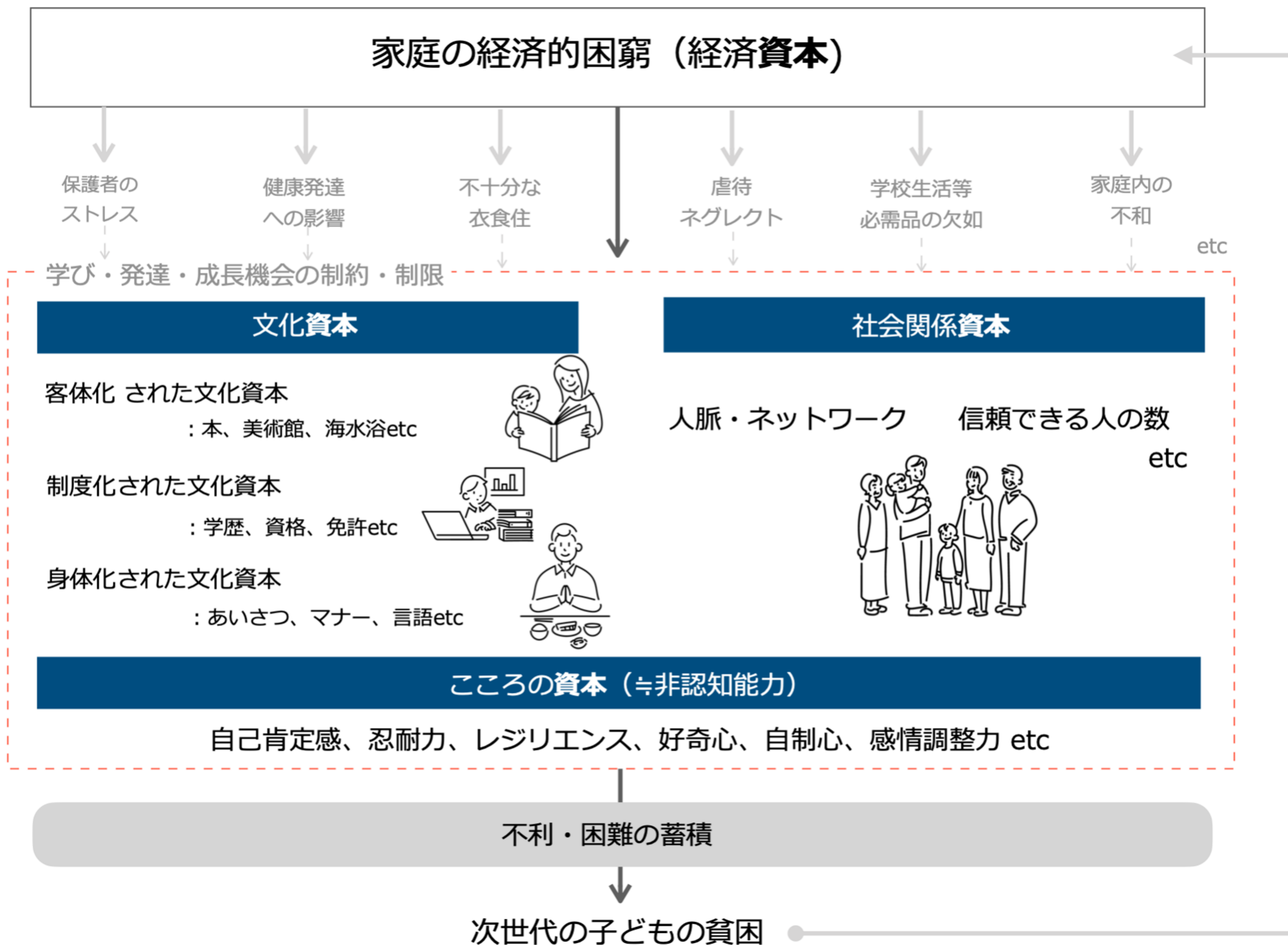
# アダチベース事業の概要

一つの施設で3つの事業を実施し、さまざまな専門性を持ったスタッフ同士の連携が可能に。



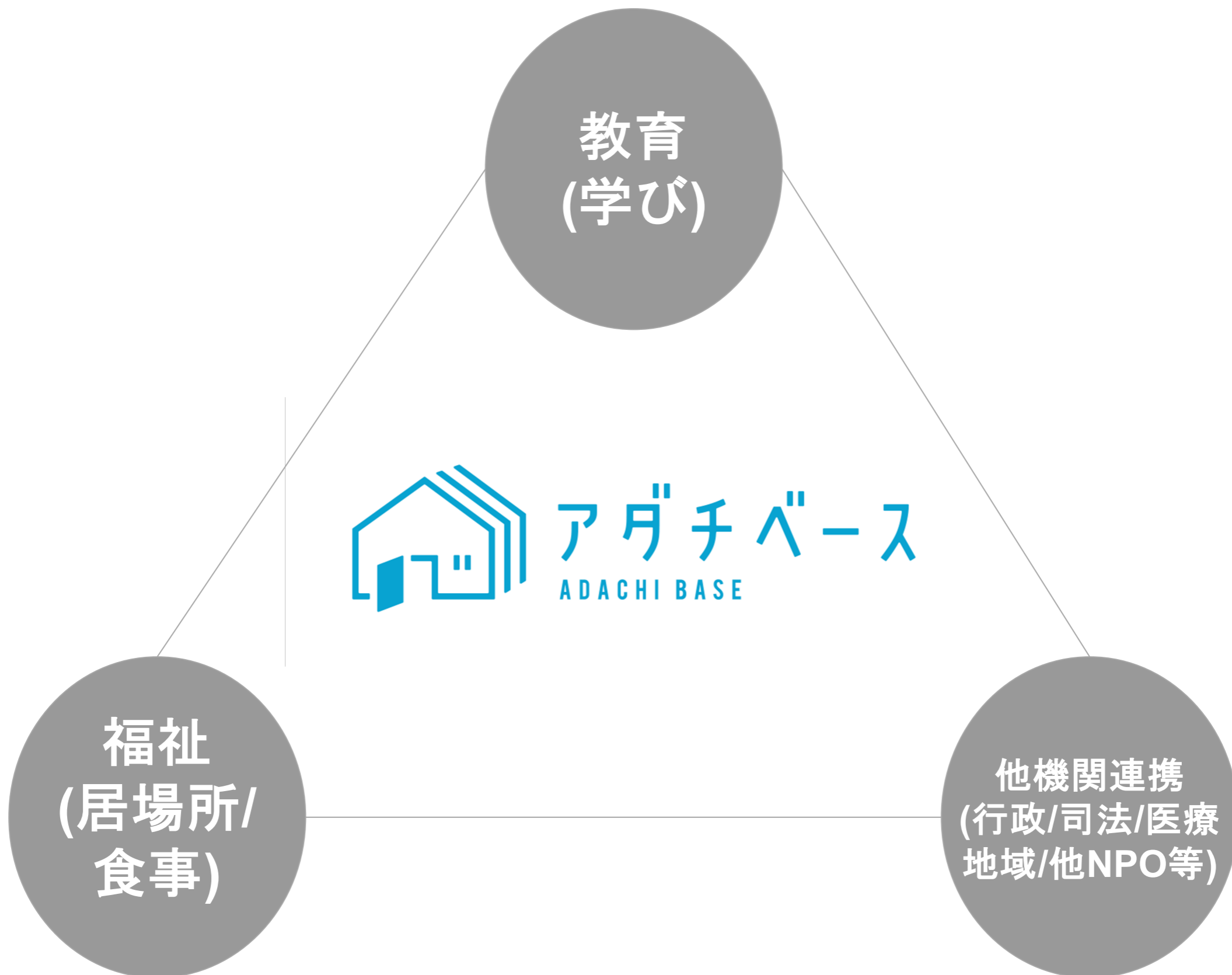
	対象学年	対象人数	開館時間	事業開始年度	在籍スタッフの専門性
<p>困窮世帯の 中高生向け 放課後事業</p>	<p>中学生 1~3年</p> <p>施設卒業高校生 1~4年</p>	<p>North(北部) 90名</p> <p>Central(中部) 100名</p>	<p>平日(月曜除く) 15~21時</p> <p>土曜・祝日 13~21時</p> <p>日曜・長期休暇 10~20時</p>	2016	<p>教員(小中高) 保健師 食品衛生責任者 キャリアコンサルタント</p>
<p>リスク高い 高校生向け 放課後事業</p>	<p>高校生 1~4年 (中退者含む)</p>	30名	<p>毎週月曜 13~20時 ※祝日は閉館</p>	2023	<p>キャリアコンサルタント</p>
<p>居場所を 活用した 不登校 児童生徒 の居場所</p>	<p>小学生 5・6年</p> <p>中学生 1~3年</p>	15名	<p>平日(月曜除く) 10~14時 ※祝日・長期休暇は閉館</p>	2018	<p>公認心理師 社会福祉士 教員(小中高)</p>

# アダチベースが捉える貧困の連鎖の構造



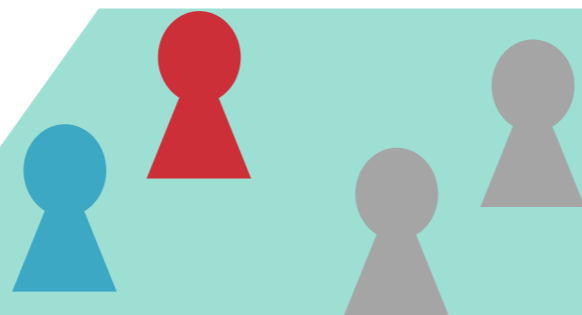
# アダチベース事業の実施内容

---



# アダチベースのフロア構成

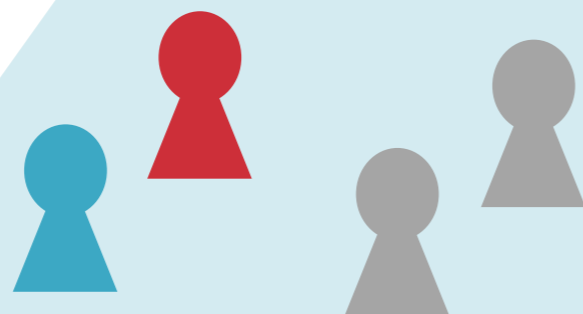
3F  
学習クラス  
スペース



① 学習クラススペース

② 面談スペース

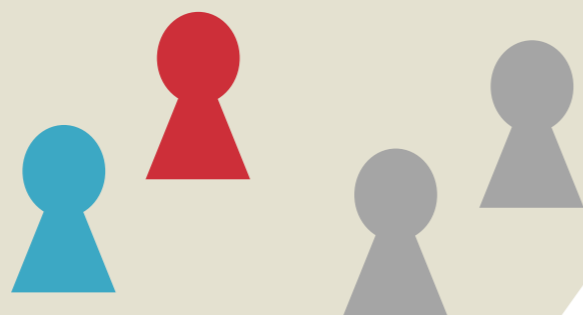
2F  
自習  
スペース



③ 自習スペース

④ ラウンジ（読書/休憩）スペース

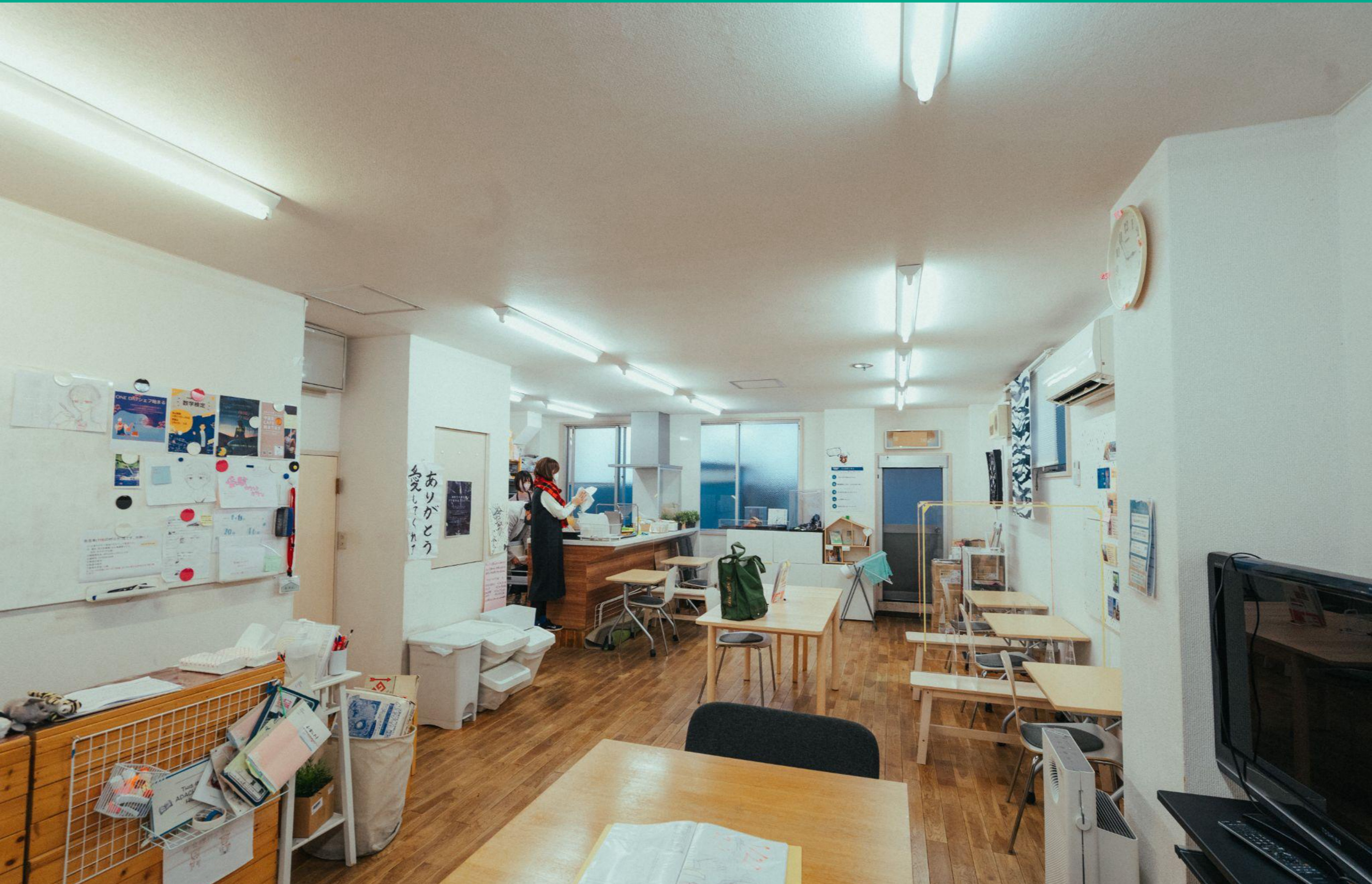
1F  
居場所  
スペース



⑤ みんなの食堂（キッチン）

⑥ 居場所・体験イベントスペース

# フロアの様子 (1F)



# フロアの様子 (1F)



# フロアの様子（階段）



# フロアの様子 (2F)





# フロアの様子 (2F)



# フロアの様子 (3F)



# フロアの様子 (3F)



# 目次

1

アダチベース事業の概要

2

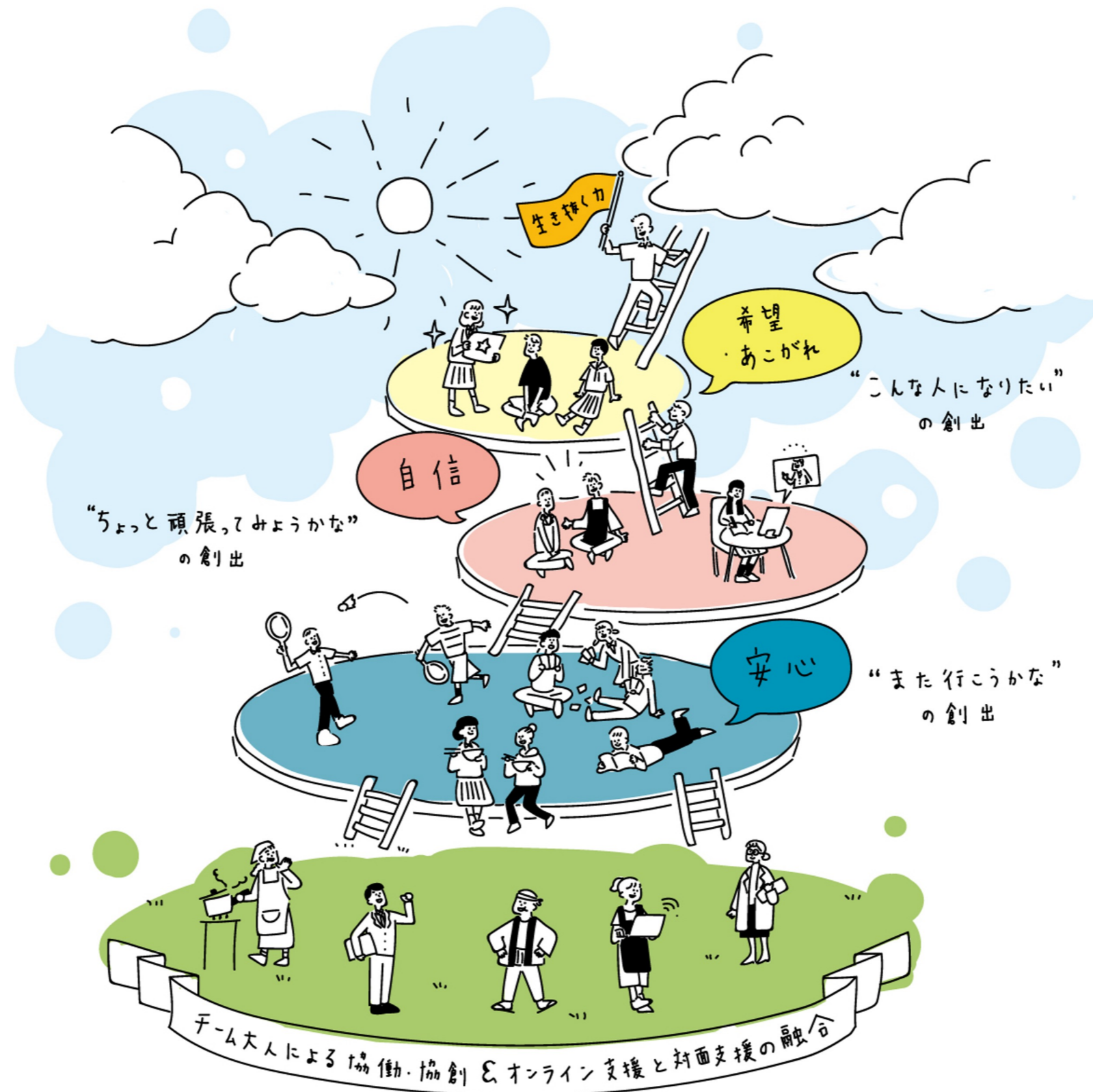
施設内における多様な人の参画への工夫

3

施設外も含めた多様な大人による事業推進

# アダチベースの施設運営コンセプト

こどもたちが社会で自立的に生き抜く力を育むためには、土台となる大人の支えが必要  
との考えに依って立ち、できる限り多くの人を施設運営の中に巻き込みながら事業を進めている。

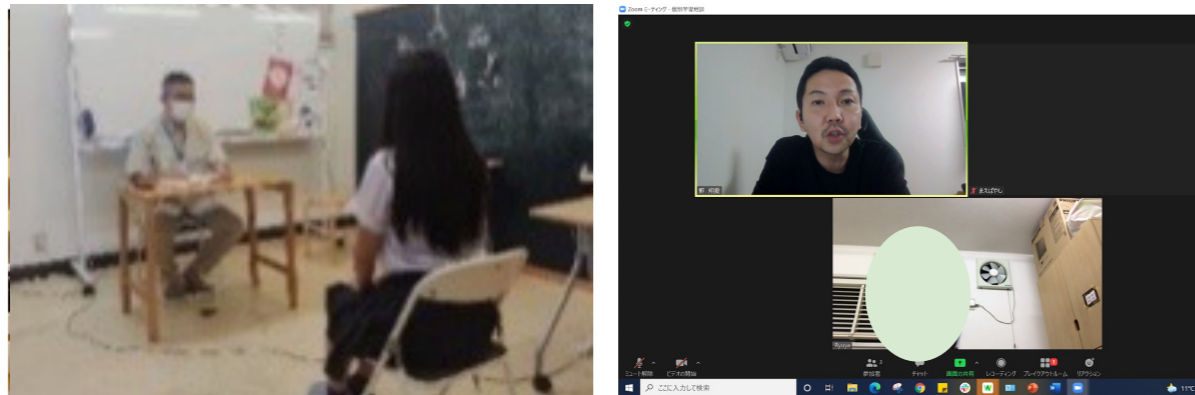


# ワンストップの多機能施設に多様な大人を巻き込む工夫

施設内で行う主要な活動のすべてに、団体の職員以外の大人に参画してもらうよう工夫をしている。NPO法人ならではのつながりを、こどもたちにも機会として還元する運営を目指す。ただし、スティグマの問題については細心の注意を払い、時間をかけてつながりや機会提供を行なってきた。

## 学習支援プログラム(クラス型+個別型)

企業経営者による面接練習、企業人事によるエントリーシート添削など、実際にビジネスの一線で活躍する大人から学習や進路選択・決定に直結する機会をサポートを受けられる。



## 体験支援プログラム

地域で活動するアーティスト、飲食店の方など、身近な大人と一緒に「小さな挑戦の一步」に施設内でチャレンジしてみようことを後押し。



## 食事支援プログラム

地域のこども食堂の方、寄付企業の方などに食事づくりに来ていただき、海外の料理、日頃家庭でつくるのが大変な料理などを一緒につくる、食べる経験を提供。



## リテラシープログラム

キャリア、性、マネーなど社会や日常により即した学びについて、専門家を招いた講義やフィールドワーク等で共に学ぶきっかけをつくる。



# 地域の大人に数多く出会ってもらうことのねらい

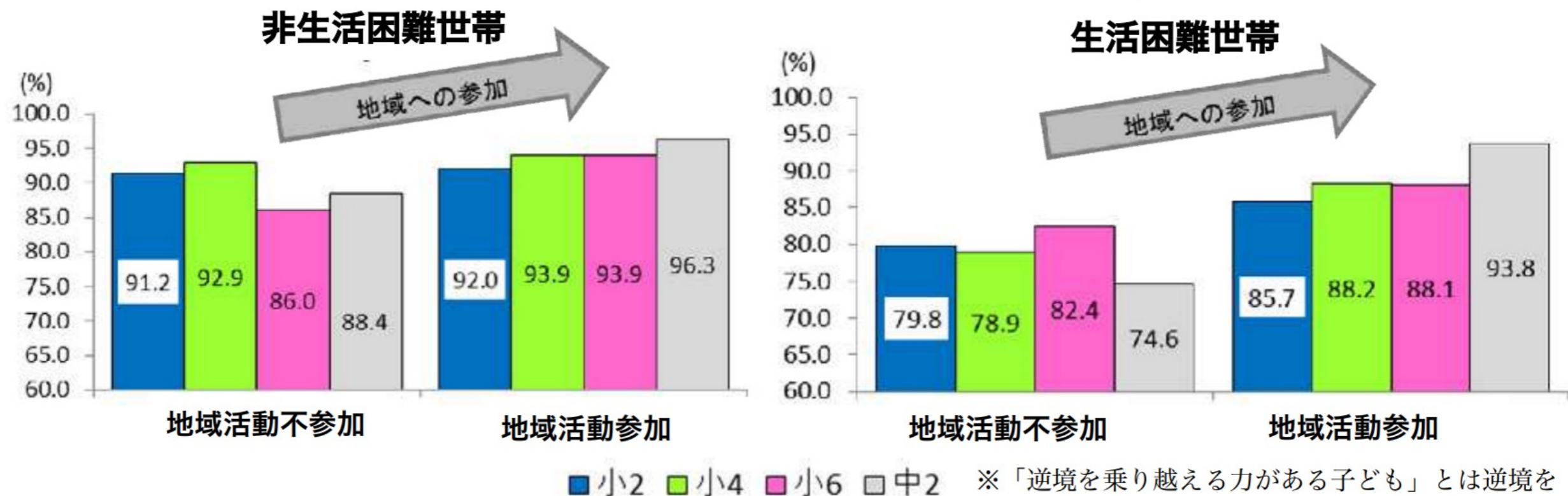
地域活動に参加している＝家庭の社会関係資本が高い可能性がある。

一部、家庭の代替としての役割も担っている学習・生活支援事業の施設は、施設自体の社会関係資本が地域の中でどの程度あるのかを見つめ直すことが重要。

## 子どもが地域活動に参加することが大切です

全学年を通じて、子どもが地域活動（近所のお祭り・子ども会・児童館等の教室など）に参加している場合、逆境を乗り越える力がある子ども※の割合が高くなることが明らかとなりました。

### 【逆境を乗り越える力（自己肯定感・自己制御能力など）がある子ども※の割合】



※「逆境を乗り越える力がある子ども」とは逆境を乗り越える力の点数が上位90%の子どもをさします。

# 目次

1

アダチベース事業の概要

2

施設内における多様な人の参画への工夫

3

施設外も含めた多様な大人による事業推進



# 施設卒業後を見据えた地域の中での活動の後押し

学習・生活支援事業を卒業した後も、子どもたちは地域の中で暮らしていく。そのことを前提に、上級学校や就労への準備、またセーフティネットとしての社会関係資本を大切にするため、地域の中での様々な活動につなげるための成果指標を持ち、担当スタッフを配置している。



親の仕事の関係で食事は基本的にコンビニ弁当がほとんどだったが、アダチベースで初めて「鍋をつつく」という経験をし、食事の場に関心を持つ。

地域の子ども食堂を手伝い、自分から様々な地域活動に参加するようになり、現在でも地域の中で配食や食堂運営に参加。



何かしらの特性を持っていたり、アルバイトを始めることに対するハードルのある子どもたちにも、まずは地域でのボランティア活動という形で「擬似就労」のような経験が用意できる。

その上で、就労への自信を身につけ、アルバイトを開始している生徒の事例も複数ある。

# 多様な人とのつながりから生まれる事業展開

地域の大人とのつながりから、施設が遠くて来られない距離にある学校内でも、放課後の自習室を運営する事業へとつながった事例。

関係するSSWや、YSWの方の繋がりから、アダチベース施設の見学等にも発展。

中学校でも  
放課後活用

After School Katariba

## 花保中学校 ASK自習教室

毎週水曜日の放課後（午後3時から5時まで）、「ASK自習教室」を開催し、生徒に自習の場を提供しています。

生徒は自分のやりたい勉強や宿題を進め、行きづまった時は学習指導員がサポートします。

部活動までの空き時間にも活用できるので、自分の学習ペースや生活スタイルに合わせて利用しています。



学習指導員は、認定NPO法人「カタリバ」の職員と大学生ボランティアの皆さん！



全校生徒  
250名中  
80名が登録！

時にはボランティアのお兄さん、お姉さんが生徒の悩みを聞き、励ましてくれることもあります。友だちとも先生とも違う、「ナナメ（斜め）の関係」が、生徒や保護者からも大好評です。



花保中学校オリジナルキャラクター  
はなほ丸

# 多様な人とのつながりから生まれる事業展開

地域の大人と子どもたちが、学校という「居場所を一緒につくる」ことも可能。  
地域の大人と子どもたちの接点が生まれる機会は、これまでの慣習だけに倣うのみならず、  
新しい施設や学校のあり方を考え、実践することで新たな取り組みが生まれるのではないか。

